

### ワークショップ3

#### 「消化管疾患に対する漢方薬のエビデンスの構築をめざして」

司会 池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）

堀江 俊治（城西国際大学薬学部医療薬学科）

漢方薬は多成分系薬物であり、それぞれの成分が多薬効を示すというユニークな特徴がある。このような特徴を持つ漢方薬を有効に使うには、東洋医学の哲学によってではなく、サイエンスによって薬理作用を解明することが必要である。最近では、漢方医学において科学的な解析が精力的に行われるようになり、次第にエビデンスが蓄積され、大建中湯や六君子湯などといった漢方薬が消化器病に効果があると認められてきた。こうした背景に基づき、本ワークショップでは消化管疾患に対する漢方薬のエビデンスの構築をめざして、最新の基礎研究や臨床研究の知見を広く募集し、それらの情報を発信し議論する場としたい。